丁寧に手作業で植え付け

約63ヘクタールの作付けを見込む

～「ときわにんにく」定植開始～

常盤基幹支店管内で生産している「ときわにんにく」の植え付けが、県内トップを切ってスタートした。

同支店管内では、主に水田転作用に栽培。雨が降ると圃場に入るのが困難なため、秋雨前でもある稲の刈り取り前に植え付けしている。

三浦雄さんは９月９日から作業を開始。一畝（100メートル）には約20キロ分のにんにくが使用され、今年収穫したものを等間隔に植え付けた。三浦さんは「今年も概ね順調に作業ができた。ここ数年、天候不順による品質低下に悩まされているが、丸々として形の良かった平成26年産に負けない、にんにくを期待したい」と話した。

ＪＡでは、平成27年産は約63ヘクタールの栽培を計画している。定植作業は10月中旬まで行われ、来年６月下旬の収穫を予定している。

一瞬の油断が事故のもと

～稲刈り前に機械安全講習会～

浅瀬石支店管内にある農事組合法人浅瀬石水稲生産組合農機具格納庫前で９月16日、秋の農業機械安全講習会が開かれた。同生産組合と黒石市機械利用組合、黒石市水田利用組織集団連絡協議会が共催し、約30人の生産者が参加した。

講習会ではコンバインを実際に動かして、操作手順や注意点を再確認。参加者は本格的に始まる秋の作業を前に気を引き締めた。

県内における農作業事故の発生は近年増加傾向で、毎年10件前後の死亡事故が発生している。コンバインの事故は１割程度だが重傷率が高いため、講師の㈱みちのくクボタの齋藤久男サービス技術部長は「機械を使用する際は、必ず取扱説明書を読むこと。そして、作業に適した服装をすることが特に重要だ」と呼び掛けた。

コンバイン使用上の注意点を呼び掛け

安全・安心な県産米を召し上がれ

～今年も放射性物質検出なし～

県が実施している農林水産物の放射性物質のモニタリング調査が当ＪＡ管内でも行われ、不検出の結果が発表された。

当ＪＡ管内では、水稲、りんご、野菜、山菜など年間約50品目の検査が行われ、そのうち田舎館基幹支店管内の水稲（玄米）については９月10日、白戸卓郎さんの圃場で８日に刈り取られたものを検査した。乾燥調製した玄米で検査した結果、２種類のセシウムは検出されず、安全・安心な農産物であることが県のＨＰで案内されたほか、12日には田舎館村の防災無線でも村民に伝えられた。

今年で３回目を迎えた同調査だが、当ＪＡ管内では全品目において放射性物質は検出されていない。今後も消費者に安全・安心な農産物を届けるため、引き続き検査を実施していく。

検査米を刈り取る白戸さん